

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク

# 2015 年度事業報告書

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

## 目次

2015 年度 総括	2
中間支援団体活動支援事業	4
情報発信支援事業	8
倶進会事業	10
中丹観光地域づくり処遇改善支援事業	17
組織概要	18

## 2015年度 総括

---

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン（収益事業）などを軸に、人と人、団体と団体（NPO、自治体、企業、行政など）のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後（今年度については京都丹波が中心）地域の活性化をめざし、活動してまいりました。



### 今年度の概要

今年度においては、京都府の受託事業や民間の助成事業がほとんどない中で、どのように中間支援としての役割を果たそうかと考えるなか、理事の一人が活動しているDV防止事業の支援として「俱進会」の助成金を受け「デートDV防止授業講師養成講座及びデートDV防止授業の開催」事業を実施したほか、中丹パートナーシップセンターの事業のひとつ「パートナーシップセンター会員等地域活動団体向け講座等の開催事業」を協働で行うなどの方法により、NPOの活動を支援する事業を継続することが出来ました。

また、一昨年の福知山等地域の水害など、近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応するため、きょうとNPOセンターを中心に準備委員会が設立される中、当NPOもメンバーの一人として、NPO等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の設立にかかわってまいりました。

さらに収益事業としては情報発信支援として「ソーシャル・ビジネス応援プラットフォーム人づくり事業」の継続事業である地域デザイン事業を行ってまいりました。



### 今後の活動

来年度においては、収益の面では地域をデザインする事業（情報発信支援）を行いつつ、NPO法人等の労務や会計・運営等を支援し、また今年度の事業である「デートDV防止授業講師養成講座及びデートDV防止授業の開催」事業で育った人材のフォローを行いながら、実際に有償で授業に取り入れていただくよう支援していこうと考えております。

さらには、全国的な課題でもあり、特にこの京都北部においては待ったなしの課題である高齢者支援について、当NPOの強みであるIT技術を生かしたシステムを構築し、広めていこうと考えています。

## 財政面について

様々な活動を行うに当たり、やはり大きな課題は財政面（資金の確保）です。今年度のように人件費の出る助成事業がほとんどない中、人を雇用し税金や社会保険等を支払っていくことはとても困難であり、なんとか事業を継続するためには収益事業中心にならざるを得ず、本来のミッションとのバランスをいかにとっていくかについても考えざるを得ません。

特にデートDV防止事業など収益となじまない事業については、助成金に頼るか寄付に頼るかしかなく、取ることが出来なければ規模を縮小せざるを得ず、長期的な計画を立てることができないため、結果的には受益者に損失を与えることになります。

改めてNPOを運営することのむずかしさを痛感しています。

## 中間支援団体活動支援事業

～地域人材の発掘とネットワーク化による NPO 等活動支援事業～

事業の種別…NPO 支援

・ **パートナーシップセンター会員等地域活動団体向け講座等の開催事業**

収入…290,000 円（中丹振興局からの受託事業…概要 1）

期間…2015 年 10 月～2016 年 3 月

・ **災害復興支援 NPO リレーショonz 実行委員会メンバーとしての活動**

収入…308,880 円

支出…交通費 37,380 円 会場費 1,500 円

差引収支…270,000 円

期間…2015 年 7 月～2016 年 3 月

・ **その他支援事業**

予算・収支…0 円

期間…2014 年 4 月～2015 年 3 月

従事した労働者数…2 名



### 組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ



<概要>

**パートナーシップセンター会員等地域活動団体向け講座等の開催事業**（中丹振興局等の協働受託事業）

内容：NPO 等中丹パートナーシップセンター会員の情報発信及び組織運営等実務の能力向上に資する講座・交流会の企画提案及び開催

● フェイスブック等 SNS を活用した情報発信講座&情報活用交流会…1 回

参加団体…… 8 団体、参加者 10 名

講座内容…… FB ページの活用方法を中心に、SNS の役割と HP の役割を明確にすることの大切さや、実際に FB ページを活用してイベントや活動を知っていただく方法、ファン獲得の方法などを伝えた。後半では中丹振興局パートナーシップセンターの HP や ML の活用法などについてワークショップを行った。

成果・課題.. 現に SNS を使っている人も多く、とても興味を持って聞いていただけたと思う。ただ、SNS に関しては継続して発信するというのが一番必要であり、そのためのネタ探しや習慣づけを行うことが出来るかどうかであると思う。

中丹振興局パートナーシップセンターの情報発信ツールについては、HP・ML ともに字が細かい、存在を知らないなどの意見が多く、この交流会の声を今後どのように役立てていくか試されると思う。

## ● NPO等年間手続き実務講座…2回

福知山会場.. 参加団体9団体、参加者16名

舞鶴会場..... 参加団体9団体、参加者14名

講座内容..... 所轄庁への届け出だけでなく、法務局や税務署等への登記・納付等も交え、実際に事務を行う上で必要なこと・間違いやすい点などを中心に構成した。

成果..... 大半の参加者から分かりやすかったという声をいただいた。今まで法務局への資産変更登記などを失念しているところもあり、法人としてのレベルアップに役立ったと思う。

質問事項の中に NPO 法人特有の問題（有償ボランティア・一日だけのアルバイトなどの雇用の仕方など）もあり、それに関連した税の適用や労災など専門的知識を必要とすることも多く、今後このような問題を NPO 間で共有する仕組みが必要と感じた。

## 災害復興支援NPOリレーショonz実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨 .....近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の設立を行う

活動内容..... 「災害時連携NPO等ネットワーク」設立準備のため、会議への参加7回、中丹（福知山会場）、丹後（与謝野町会場）での説明会開催等

成果と課題...平成26年8月の福知山豪雨で被害に合った NPO やその際被災者に専門的支援を行った NPO などを中心に参加を呼びかけた。

災ネットの大枠が決まり、基金の設立や Yahoo!等との連携により資金調達の道筋ができたことは大きな成果であるが、一方、被災地であった丹波地域と京都市を含むその他の地域との温度差が大きく、出来上がった規約内容からするとどれだけの団体の理解が得られ、実際に機能するものになるのかという不安はぬぐえない。また、活動するだけ疲弊するのではという課題も解決しきれていない。さらに、中丹・丹波地域として、支援し合える仕組みづくりを行うことも急務である。

## その他支援事業

### ○Web ページ及び Facebook ページの更新 (HP アドレス: <http://www.kyoto-tantan.net/>)

Web ページ内容：当NPOの活動内容等の情報と、中丹を中心とする NPO 主催のイベントなど

Facebook ページの内容：京都北部の良さやNPO主催のイベントなど日々の話題を中心に情報発信



Web ページ



Facebook ページ

#### ○情報発信支援 相談・フォロー・講座開催（相談…5件 講座…1件）

内容：団体や企業等の HP 作成に対するアドバイスや SNS の使い方・設定方法などの相談を受けた。  
また、京都府中丹振興局綾部総合庁舎職員様に対してフェイスブックによる効果的な情報発信について講座を行った。

#### ○助成金等申請支援 申請補助・相談・フォロー（2回）

内容：女性の支援活動等を行っている団体から、助成金情報や申請の方法などをアドバイスした。  
また、デート DV 防止に関する事業を当 NPO が助成金を申請し、協働で事業を行う形で実現した。（P 8～）

#### ○会計支援 相談+フォロー（7回）

内容：以前講座等に参加していただいた団体やNPOから、会計ソフトの使用方法及び会計報告書等作成の相談を受けた。会計ソフトを導入したものの、複式簿記の知識がないため使いこなせない団体も多く見受けられるようで、今後 NPO の会計が NPO 会計基準の求めるレベルに達するよう、支援していく必要がある。

#### ○マネジメント支援 労務管理相談（8回）

内容：福祉系NPOスタッフから、労基法に基づいたスタッフの管理体制についての相談等を受けた。  
また、短期アルバイトに対する所得税の関係や労災等についての相談もあった。NPO 法人の場合、ボランティアや短期アルバイトという形態で雇用することも多く、法を守ろうとするとたくさんの知識と経験が必要になってくる。これまでは NPO だから適当でも構わないのでは？…という風潮であったが、NPO 法人も法人である以上、法を順守することは最低限のルールであり、それをきちんと伝えて広げていくことも支援の一つと感じている。

#### ○人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり

内容：今年度行った事業「デートDV防止授業講師養成講座」に参加していただいた方の声を形にしたいと考え、当 NPO が支援する形で京都北部で DV 防止のために活動されている個人や団体のネットワークをつくることにした。

これにより、今までウィメンズネット・こうべに頼ってきた講師派遣を北部の人材のみで行うことが可能になり、費用の面でもかなり抑えることができ、人材のレベルアップや情報共有・発信などを行うことで、学校など関係者の理解も得やすくなる。

また、それぞれの団体・個人の強みを生かし、今までやりたくてもやれなかった事業を共同して行うことも可能になると考えている。

### 支援事業全体を通して

#### 事業成果：

- ・ 当初京都府の受託事業という形で財源を得て行ってきた支援事業も、そういった形の受託事業が無くなったことに加え、時代の要請と共にネットワークづくりやコーディネートなどを主体としたものに

変わってきたが、情報発信支援や会計実務についてはNPO法改正後、未だに法人としての責務（所轄庁への報告・法務局への登記・納税・社会保険加入等）を果たしていない団体も多くみられ、相談等の件数はむしろ増加しており、あらたな団体からの法人の税務・労務に対する相談なども寄せられるなど、支援事業の重要性は増してきているように思う。

**反省点、改善可能な点、課題など：**

- ・ 課題は、昨年度に引き続き、今後予算が立てられない中で、今までの支援をどのように継続していくか、また、これから必要とされる支援をいかに早く察知して実効性あるものにできるかだと思っている。

ネットワークづくりについては幸いなことに、来年度から福知山公立大学が設立され、今までお世話になってきた素晴らしい先生方が何人か就任されることになり、その中で共に地域の継続発展をめざし、人や企業をつなぎながら、新たなコトおこしの芽を育てることが出来ればと考えている。

## 情報発信支援事業（収益事業）

### 概要

収入：2,209,657 円 支出：4,062,551 円

収支差額：－1,852,894 円

### 1 事業の趣旨・特徴

#### 事業への想い

地域（企業）情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、地域経済の活性化を促す。

地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

#### 事業背景

##### 【京都北部の課題と事業化の背景】

・京都北部は海の京都、山の京都を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されないままであったり、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

### 2 事業の概要等

#### ●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

##### 【特徴】

HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につなげるよう、①更新のしやすさ ②SNSとの連動 ③スマホ対応 ④魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやロゴ等を作成

##### 【実績】

地域活動団体・NPO法人のHP作成…2件

企業のHP・ロゴ等作成…6件（うち現在作成中のもの3件）

#### ●コーディネート

- ▶ ポリテクカレッジ京都の卒業を迎える学生たちにむけて、技能・技術の伝承、実社会の厳しさや素晴らしさ、客の笑顔を見たときの感動などを伝えることを目的とした講演を行う技能士を紹介。



### 3 事業体制

運営スタッフ…2名

協力者・協力企業（敬称略・抜粋）

氏名等	役割	備考
兼本 博行	デザイン	株式会社アंक
渡辺 康一	IT	デジタルハリウッド大学大学院 客員教授

### 4 事業の成果と課題

地域の課題解決の為にヒアリングや情報発信を行う中で、新たな出会い、人との交流、ネットワークの構築、仕事を頂けたときの喜びなど多くの財産が得られたと思う。また情報発信のサポートとしてデザインを手掛ける中で、相手の要望を叶えられたもしくはそれ以上のものができた時、また実際に使用されているのを見た時の感動は言葉にできないものがある。

まだまだ継続的に収益を得られるまでには達していないが、団体目線企業目線ではない利用者様、お客様の目線に立った提案を続け、少しずつ信用・信頼を得ることで事業を軌道に乗せていきたい。

## 俱進会事業（デートDV防止授業講師養成講座等の開催）

---

### 概要

予算：699,520 円

支出：699,690 円

収支差額：-170 円

受託期間：平成 27 年 8 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

雇用者：5 人（うち 3 人は短期アルバイト）

### 1 事業の趣旨

#### 事業の背景・課題と目的

##### <背景と課題>

2014 年度内閣府の調査によると、23.7%の女性（男性16.6%）が DV 被害を受けており、なかでも若年者の交際中における「デート DV」が増加傾向にあります。殴る・蹴るなどのほか、友達関係を規制したり、金銭をたかる、高額なプレゼントをねだる、裸の写真をインターネットなど SNS を使ってばらまくなど多様で、若年者の体だけでなく、心にも大きな影響を与えている。また、デート DV は、「暴力による支配的な人間関係」を日常化させ、DV 家庭をつくるきっかけとなってしまう。

そこで、早急にデート DV 防止授業を中高生、大学生に対して実施し、健全な若年者の社会生活をつくるため、京都北部に全く足りていない講師を市民の中から養成し、市民の理解を深める必要がある。

##### <目的>

近年低年齢化しているデート DV により、将来の DV 被害者・加害者をつくらないため、必要とされる地域や学校（中学・高校・大学）に出向いてデート DV 防止授業を実施し、DV の啓発活動をする。また、授業が実施できる講師を養成することで、より多くの市民に実態を知っていただき、防止に役立てる。

##### <考えられる成果>

1. 学校（中学・高校生・大学生など）に授業することにより、次のような健全な社会生活を啓発することになる。

①DV が相手に与える影響の大きさを学び、互いをいたわることの大切さに気付くことで、若年者の健全な恋愛交際につながり、彼らがやがて家庭を持った際にも、子どもたちに人を思いやることの大切さを伝え、いじめや新たなDVの連鎖を防ぐことができる。

②DV が起きている家庭で育った子ども（学生）が心理的虐待の被害者であることを知り、自分自身の被害に対する対応、もしくは、将来自分の家庭を持った時の二次被害を防ぐことになる。

2. 講師を養成することで、育成された講師が行政や学校の協力を得ながら、市内外で実施する研修・講演会を通して DV 防止啓発活動を行い、市民にデート DV や DV の正しい知識を広め、男女



## <事業の詳細>

### I デート DV 防止授業講師養成講座の開催

#### ● モデル授業の開催

開催時期：平成27年11月3日（火）

参加者：モデル授業参加者14名（うち男3名 女11名）ウィメンズネットこうべ講師1名、講師補助1名 スタッフ2名

デート DV 防止モデル授業を参加者に対して開催

※ 実際のデート DV 防止授業は講師2人・学年単位・90分プログラム（学校側の依頼により調整）  
（モデル授業の内容と流れ）

1. 生徒（今回は参加者）がデート DV 自己チェック表に記入（これまでの自分の価値観、考え方を知る）
2. 参加者自身による、身近なデート DV の寸劇（被害を受けている場面）を行う
3. パワーポイントを使って、内閣府などの公表されているデータやグループ調査に基づくデータを表し、わかりやすくデート DV について講師が説明する

— 対等な関係を築くために —

（対等な関係は DV だけでなくいじめ等の暴力も起きない事を伝え身近に捉えてもらう）

- ・ 社会の現状（力と支配について）

- ・ 暴力の種類・・・デート DV の特徴である束縛と性暴力について詳しく伝えている

- ※ インターネットを使った暴力（リベンジポルノ）なども時代の要請に合わせて取り入れている

- ・ デート DV とは・・・生徒から多い疑問点「けんかといじめの違いについて」説明

- ・ 何故 DV は起きるのか・・・どういう考え方の人が暴力を振るうのか、DV が起きる仕組みについて

- ・ 大人の DV についてと DV 家庭で育った子どもについて

結婚している女性の3人に一人が DV 被害を体験しています。すなわち、DV を見聞きしている子どもが3割はいるということをつまみ、「大人の暴力はあなたのせいではない。」

「あなたが決心したら暴力のない家庭を築くことができます」と伝える箇所は生徒が熱心に聞いている

※自分自身が受けている虐待に気づくことと、将来自分の家庭を持った時の二次被害を防ぐ

- ・ 自分に出来ることを考える・・・自分がデート DV 被害にあっていたら 自分がデート DV をしていたら まわりにデート DV 被害を受けている友達がいたら・・・

- ・ 対等な関係を築くには・・・尊重するということがどういうことかを具体的に伝える

※早稲田大学の学生が作成したデート DV 防止・啓発のための DVD 鑑賞

4. 参加者自身による、対等な関係の寸劇を行う

※劇後、生徒の感想を言うてもらうことで暴力に合わない対等な関係の大切さが実感される

5. 終了後に自由筆記でアンケートをとり、今後の講座内容等に活かす

● デート DV 防止授業講師養成講座

開催時期：平成27年12月5日（土）～12月6日（日）2日間

参加者：講師2人×2日間、延べ参加者10名（うち男性3名、女性7名）、スタッフ2名

＜養成講座内容＞

1. 参加者のジェンダーに対する自己チェック
2. DVについて正しく理解する。
3. DV被害者の実態と当事者への支援
4. 「デートDV防止授業」の内容について
5. グループワーク
6. 振り返り

※ 机上だけの学びではなく、「バリアモデルワーク」という動くアクティビティを体験することで、DV・デートDV被害者の心情を身近に感じることができるよう構成

＜講座風景＞



● フォローアップ研修（参加者1回の練習につき4名程度 計6名）

講師1人を招き4回開催し、実践授業のための練習を行った

- デートDV防止授業内容について受講生とワークショップを通して理解を深める
- デートDV防止授業のサブ・メインの役割、及び練習
- 授業に入るまでの学校側との打ち合わせ等の手順の確認
- パソコン、DVD機器の操作の確認
- パワーポイント、DVD等、ソフトの準備

＜公民館等を利用した練習風景＞





## Ⅱ デートDV防止授業の開催…2回（成美大学・夜久野学園）

モデル授業と同内容の授業を、新しく講師となった人たちにより行い実践授業の場とした。この際、現に講師である者が一緒に入ることによってフォローを行った。

- 成美大学…平成28年1月13日（水） 養成講師5名 フォロー1名 スタッフ2名 学生10名 成美大学先生3名

⇒大学生用プログラムを実施

- 夜久野学園（小中一貫校）…平成28年2月22日（月） 養成講師4名 フォロー1名 スタッフ2名 生徒（8年生）22名 夜久野学園先生4名（校長・教頭・担任他）

⇒中学生用プログラムを実施

<成美大学授業風景>



<夜久野学園授業風景>



### 【振り返りミーティング】

時期：平成28年3月2日（水） 場所：つぎの里

実践授業でメイン講師やサブ講師として参加してくれた方、スタッフとして参加した者など計7名により実践授業における生徒（学生）の反応や実際授業を行ってみての気づきなどを共有し、次年度以降この事業をどのように発展させていくかについて話し合った。

- 今後、京都北部で互いに連携し合い、ひとつでも多くの中学で授業を行っていただけるよう呼びかけること
- 当面はウィメンズネットこうべのレジュメやプログラムを使用させていただくが、今後北部独自のプログラムを作っていくこと
- 将来的には学校にこの教育の必要性を認めていただき、有料の授業としていくが、当面は助成金などを活用し事業を進めていくこと

### 【市民や教育関係者等の関心を深めるための報告書作成・送付（配布）】

配布・送付時期：平成28年3月末

今後、福知山市内およびその周辺地域においてデートDVによる被害・加害に苦しむ子供たちを少しでも減らすため、あるいは将来のDV被害者・加害者を作らないためには市民のデートDV被害に対する理解や教育関係者が関心をいただき、授業等に取り入れていくことが必要である。

そのため、今回の事業による成果等を報告書としてまとめ、市内の中学校13校 市内の高等学校7校 福知山市教育委員会 福知山市人権推進室舞鶴市教育委員会 京丹後市教育委員会 宮津市教育委員会 綾部市教育委員会他関係先 計60か所へ発送・配布を行った。

## 3 事業実施の成果と課題

### ● デートDV防止モデル授業開催の効果

デートDV防止モデル授業では男性も含め、たくさんの年齢層の方にご参加いただき、まずはデートDVの現状とジェンダー（生物学的性差をセックスと呼ぶのに対して、性別に基づいて社会的に要求される役割などの社会的性差をさす）のDVに及ぼす影響などを認識いただいた。

### ● デートDV防止授業講師養成講座

2日間にわたって、デートDV防止モデル授業の内容をさらに掘り下げ、実際の相談事例などをもとにそれぞれが自身のこと（あるいは子供や孫たちのこと）としてとらえ、どうすればデートDV被害を防げるのか、すでに被害を受けている子供たちをどうすれば救えるのかをワークショップ方式で話し合うことにより、参加者自身が相談を受けた場合や講師になった場合にどう対応すべきかのイメージをつかんでもらえたと思う。

### ● デートDV防止授業

実践授業に参加された方のうち、一人はメインの講師ができるまでに上達され、残りの方々についてもサブの講師を任せられるようになった。

来年度以降は、ウイメンズネット・こうべの協力を得つつも、京都北部だけで授業を行うことができるようになり、より多くの場でデートDV防止授業を開催できるようになった。

また、生徒・学生に対する効果としては、学校ではあまり教えることのないデリケートな性にかかわる暴力やジェンダーについて若いうちに学ぶことで、肉体的な暴力だけでなく言葉などの精神的暴力で相手を傷つけることもあることやこれまで男らしさ・女らしさとして社会的に定義づけられていたことが実はDVの引き金になってしまうことなどを知ることができ、互いが対等な関係を築くことで、デートDVや将来のDVを防止することにつながることを理解してもらえた。

また、この授業はSNS（特にライン）によるいじめの問題にも通じるものがあり、対等な関係が崩れたときいじめやDVが起こることも知ってもらえた。

#### ● 課題

大きな課題として、まだまだ市や教育委員会、学校などが無償ならやってもらってもいいけど、という意識であり、事業を継続していくためにはどうやってお金を稼ぐのか、どこから捻出するのかということがある。

また、市民や関係者の理解も十分ではなく、根底にある「ジェンダー」の問題については、子どものころからの教育や環境の影響が大きく、気が付けば男性がリーダーシップをとり、女性が従う姿が理想という考え方が植えつけられてしまっているように感じる。

それがDVや虐待に発展してしまうという事実をより多くの子供たちに伝え、他人の生き方を尊重し自分らしく生きることの大切さを学んでもらえるように努力したい。

## 4 事業チームの体制

管理運営スタッフ…常勤2名

事業担当スタッフ…理事1名+アルバイト3名

## 5 協働・参画体制

#### ● 公益財団法人俱進会…事業の助成をいただく

「薫育事業を通じて国家に有用な人材を養成する」ことを目的として ①目的に沿った活動又は研究に対する費用の助成及び表彰 ②啓発的なセミナー・講演会の開催を行っている

#### ● 成美大学、夜久野学園…デートDV防止実践授業の場を提供

#### ● 福知山市教育委員会…事業全体を通じて後援いただく



# 中丹観光地域づくり処遇改善支援事業

## 概要

予算：488,585 円

支出：489,953 円

収支差額：－1,368 円

受託期間：平成 27 年 4 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日まで

## 1 事業の趣旨

### 事業の目的

観光情報発信をHPやパンフレットにより強化することで、社員の福利厚生を充実させ、定着率の向上を図る

## 2 事業の概要等

### 具体的な事業内容

#### 【処遇改善内容】

法定休暇を上回る介護休暇、リフレッシュ休暇の導入により、スタッフの定着等につなげた

#### 【処遇改善費用のための具体的な取組】

地域の観光・活性化につながる写真や物品販売HPとパンフレットを作成し、安価で利用していただくことにより、中丹地域の良さを他地域に発信することができるとともに、それで得た売り上げをスタッフの処遇改善のために活用する。

<たんたんネットショップ Web ページ>

<パンフレット>

<http://kyoto-tantan.com/>



## 3 事業実施の成果と課題

今回の事業で導入した介護休暇の上乗せにより、スタッフが親の介護と仕事の両立を実現することができ、雇用を継続することができた。

# NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織

## 概要

---

### 会員・寄付金

正会員（１口 1,000 円）14 名

寄附 711,255 円



### 会議の開催

#### 理事会の開催

日時 ……平成 28 年 5 月 11 日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 ……眞下賢一、森田洋行

内容 ……2015 年度事業報告、決算案、2016 年度事業計画、予算案等

#### 通常総会の開催（予定）

日時 ……平成 28 年 5 月 11 日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 ……眞下賢一、森田洋行、その他会員等

委任状 ……4 名

内容 ……2015 年度事業報告、決算案、2016 年度事業計画、予算案等



### 事務局体制

当 NPO の副理事長が事務局長として通年勤務。他 NPO スタッフとして 1 名の理事と 1 名のスタッフ、計 3 名体制で活動。必要あるときはアルバイトを雇用。